

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02-13-3/5)

目 的

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財の実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集した記録・資料の整理を行い、媒体転換等の必要な措置を講じるための準備を進める。

成 果

1. 無形民俗文化財に関する調査・資料収集

民俗技術の調査として「秋田のイタヤ箕製作技術」「越中福岡の菅笠製作技術」「小木のたらい舟製作技術」及び東京都内の職人技術に関して、現地調査と資料収取を行った。また継続テーマである削りかけ状祭具に関わる技術と風俗慣習の研究として、群馬県中之条町、吾妻町等で調査を行った。また岩手県・宮城県の被災地域における無形民俗文化財の現状調査を行った。

2. 無形民俗文化財の公開状況に関する調査研究

全国民俗芸能大会（日本青年館）における芸能公演に関する調査と記録。

3. 研究集会の開催

2013（平成25）年11月15日（金）、「わざを伝える―伝統とその活用―」をテーマに第8回無形民俗文化財研究協議会を東京文化財研究所地下セミナー室で開催し、115名の参加者を得た。

論文

- ・久保田裕道「日本民俗学の研究動向（2009-2011）民俗芸能」『日本民俗学』277 日本民俗学会 pp.100-112 14.2
- ・久保田裕道「被災地における無形伝承の復興と情報ネットワーク」『共存学2 災害後の人と文化、ゆるぐ世界』弘文堂 pp.49-66 14.3
- ・久保田裕道「鎮魂の解釈をめぐる―タマフリとタマシズメと―」『宗教民俗研究』23 日本宗教民俗学会 pp.1-17 14.3
- ・今石みぎわ「出会いのトボス―描かれた山と人間」『遠野物語 遭遇と鎮魂』岩波書店 pp.3-30 14.3

発表

- ・今石みぎわ「無形文化遺産情報ネットワークの活動報告」連携研究会：文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用のための基礎的研究―大学共同利用機関の視点から 国立民族学博物館 13.6.11
- ・今石みぎわ「アイヌと本州以南の祭祀具―イナウと削りかけ」特別講義もう一つの日本と出会う：アイヌ文化 東京造形大学 13.7.4
- ・久保田裕道「無形文化遺産情報ネットワーク」東京文化財研究所総合研究会 14.1.14

刊行物

- ・『第8回無形民俗文化財研究協議会報告書 わざを伝える―伝統とその活用―』東京文化財研究所 14.3
- ・『ごいし民俗誌』東京文化財研究所 14.3
- ・『東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興』東京文化財研究所 14.3

研究組織

○石崎武志、久保田裕道、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、齊藤裕嗣（客員研究員）